

## 第4回 鎌倉海岸七里ガ浜地区侵食対策協議会

### ◇ 開催概要

日時：令和6年3月5日 14:00～16:00

場所：鎌倉市消防本部 鎌倉消防署 3階講堂

出席者：委員17名、事務局15名、傍聴者6名（委員随行者含む）

### 議事概要

#### 1. 開会

#### 2. 試験養浜後の海浜状況について（資料1）

- ・ 2023年10月27日から11月30日の高波浪により、海側の盛土が侵食され、盛土前面の海浜地盤高が約0.5m低下し、砂の下の岩盤が露出した。
- ・ 極楽寺川の河口導流堤の西側で砂が堆積し、高さ3mのバームが形成された。
- ・ 期間中、東向きの沿岸漂砂が発達し、砂が東に移動したことが確認された。

#### 3. 試験養浜箇所の観察について（資料2）

- ・ 令和5年4月に実施した養浜盛土は波の作用を受けにくく、少しずつ砂は供給されるが、七里ガ浜を復元するには遅すぎる。
- ・ しかし、汀線付近に養浜するとすぐに流されるため、養浜盛土位置の兼ね合いが難しい。

#### 4. 海浜流に関する考察等について（資料3）

- ・ 衛星画像での波の入射方向の読み取りや、海浜流計算結果から、七里ガ浜の底質の一部が、稲村ガ崎沖を通過して東側へと流出する可能性があることが示された。

#### 5. 環境調査結果について（資料4）

- ・ 底質について、海域については礫が出現していることが確認されたが、養浜盛土の結果を顕著に示す結果ではないので、今後の基礎資料として活用する。
- ・ 藻場、付着生物において変化が確認されているが、養浜による影響なのか判断が難しい。

#### 6. 令和5年度の養浜工事について（資料5）

- ・ 3月下旬に着工予定で4月に養浜砂の運搬を予定している。
- ・ 昨年実施した養浜盛土は、大きな台風が来ないと砂が供給されないこと、管理面、利用面及び仮設通路として利用するため、取り崩すこととする。

●委員意見概要

主な委員意見を整理した。(●意見、⇒意見に対する回答など)

●養浜盛土付近の侵食には、階段から流れてくる雨水は考慮されているか。【奥田委員】

⇒ 局所的には影響あるが、すごい勢いで岩盤が露出したので、そのような話ではなく、この辺り一帯の砂がなくなっているという結論に至る。【宇多会長】

●以前は砂浜があり何百年も砂浜が存在していたということは、その間、海流に変化がなく、ここ数十年の間に海流が極端に変化したという解釈でよいか。【伊澤（中原委員代理）】

⇒ 明確には答えられないが、日本列島を取り巻く環境等の関係で波の方向が変わっている場所が多々ある。確たる証拠はないが、波の来る方向が少し西側に傾いた可能性が考えられる。【宇多会長】

●砂浜の減少が自然状態で生じた現象であれば、自然に任せ、人為による修復は不可能に近いのではないか。【伊澤（中原委員代理）】

⇒ 昔あった七里ガ浜を完全に再現することはできないにしても、見えない構造物で、景観を維持しつつ、時々砂を入れる方法は、今の技術でできないわけではない。ただし予算、時間、合意が必要。【宇多会長】

●行合川から小動は砂が増えているので、この原因がわかれば砂浜の再現の参考になるのではないか。【伊澤（中原委員代理）】

⇒ 小動側は結構砂がある。東寄りの三浦半島側から来る波が小動側に入り、砂が小動岬の方に溜まる。2019年10月台風の東寄りの波により大量の砂が小動側の沖合に移動し留まった。その後の静かな波により、岸側に戻って来たので、小動側へ砂が動いたように見える。しかし、長期的に見ていつもそうなるとは限らず、変動する。【宇多会長】

●小動側の砂は、また減少する可能性があるか。【伊澤（中原委員代理）】

⇒ 減少するかどうか分からないが、あまり動かない可能性が高いのではないか。プリンスの駐車場にある階段が突出し砂の移動を止めていることなど、複雑な要素が絡んでいる。【宇多会長】

●七里ガ浜の稲村側に着目しているが、小動から稲村全体を見て議論していく必要性があり、モニタリングも小動側も増やすほうがいい。【石川副会長】

⇒ 今でも結構、事務局は大変で、やりたいことがたくさん出てくる。しかし、七里ガ浜全体としてバランスが崩れているようなので、よく考えないといけない。【宇多会長】

⇒ 小動側の方のモニタリングも検討する。【西山委員】

●例えば、住民の方に定点写真を撮ってもらうことでも重要な情報になる。【清野委員】

⇒ この角度で撮ってもらうということをあらかじめ住民の方に伝えれば無駄がなくすむ。【宇多会長】

⇒ オーストラリアのゴールドコーストからシドニーの海岸では、スマホを置く台を州が作って政府が設置し、皆さんが写真を撮ってアップしてくださいとしている。【石川副会長】

- サザエが見当たらないことについて、県の水産試験場でサザエを育種して放流をしていたが、その放流の状況はどうなっているか。【奥田委員】
  - ⇒ 大まかな数字だが、以前と同じぐらいで15,000個体程度放流されているが、育ておらず、採れても小さい。【池田委員】
- 大型の海藻が枯れてしまうという状況なのか。【清野委員】
  - ⇒ 海藻については、養浜盛土の前あたりで、アマモが一番生えていたところだったが、今年は確認できなかった。ワカメは、今年は10年で1番生えている状況です。カジメ類は減っている。【池田委員】
- ムラサキウニが増えて海藻を食べてしまうなど、マイナスの部分はないか。【清野委員】
  - ⇒ 多分ある。サザエはカジメだけを食べているわけでない。むしろ赤いテングサ類を食べる方が多いらしい。【池田委員】
- 環境調査は、砂の流出の影響を確認することが目的であったが、この海域の磯焼けや温度変化の状況だとか様々な脅威に晒されているのかと感じた。【清野委員】
  - ⇒ 養浜と関係ないと思うが、温暖化によるカジメ等の減少は、生物の活性化に伴って栄養素が不足するためと言われている。浄化設備の整備が進み、栄養素が少なくなっている状態に相模湾があるという話は聞いている。【池田委員】
- 東日本大震災、スマトラ沖地震の頃から気圧配置が少し変化しているように感じる。昔はフィリピンの辺りの台風で、稲村ガ崎あたりは天気が良くて波が来るといった状況があったが、最近はそういうことがなくなった。昔とはいろいろな意味で変わっていると感じる。【奥田委員】
  - ⇒ 地球規模の変動が起こっているかもしれない。それが生態系にまで影響を及ぼしている可能性があるということだと思う。【宇多会長】
- 計画している養浜盛土の目的を明確にし、共有しておきたい。【宇多会長】
  - ⇒ 砂浜と岩盤の上での砂の流され方のモニタリング調査を行い、今後の養浜方法に反映する。【事務局】
  - ⇒ 砂を運搬するクローラードンプが走行できるように、既存の盛土を崩して道を作る。【事務局】
- 養浜の内容については、本日欠席されている湘南漁業協同組合鎌倉支所にも説明して、理解して頂く必要がある。【池田委員】
  - ⇒ 前回、養浜の方向性は合意しているが、説明を行った方がよい。【宇多会長】
- 極楽寺川周辺が厳しい状態であると感じる。極楽寺川周辺を主体とした養浜ができないという課題があれば改めて教えてほしい。【石川副会長】
  - ⇒ 前回の協議会で、極楽寺川周辺の岩盤と砂浜で試験養浜するという案もあったが、道路工事の仮設構台の設置で今回の場所を選んだ経緯がある。極楽寺川周辺での養浜も考えなくてはいけないので、今後関係者と調整しながら検討していく。【事務局】

- 道路工事の仮設構台を利用して極楽寺川付近に砂を補給することは可能か。そういうこともある前提で、管理者や協議相手を整理する等協議をするときの準備をするとよい。【清野委員】
  - ⇒ 国道134号の防災工事は、今後も数年かけて実施する予定です。また、この委員会の中でも、極楽寺川付近で養浜をすることが効果的という合意が形成されれば、検討を進めて、準備を考えていく。【西山委員】
  
- 今回の養浜に用いる砂の粒径について説明を願いたい。【池田委員】
  - ⇒ 今回入れる砂は、茅ヶ崎市中海岸にも養浜している砂で、中央粒径は約0.6mm。【事務局】
  
- 砂に埋まっていた階段や擁壁などが壊れ始めており、危険である。また、発生した瓦礫などが波にさらわれて移動すると岩盤を壊し汀線に対して縦の溝ができてしまい、養浜をしても、その縦の溝に沿って、沖へ移動してしまうのではないかと考える。【奥田委員】
  - ⇒ 施設の管理という観点から各管理者が集まって、確認等行っていく。【西山委員】

以上